

認知症とは

認知症は、脳の病気や障害などさまざまな原因により、認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態をいいます。

アルツハイマー型認知症は、認知症の中で最も多く、脳神経が変性して脳の一部が萎縮していく過程でおきる認知症です。物忘れから発症することが多く、ゆっくりと進行していきます。

続いて多い血管性認知症は、脳梗塞や脳出血などの脳血管障害によっておきる認知症で、一部の認知機能は保たれている「まだら認知症」が特徴です。

認知症の初期症状

初期症状の特徴として、同じ話を何度もする、大事な約束を忘れてしまうなどの物忘れが多いです。進行すると、服の着方や、リモコンなどの道具の使い方が分からなくなるなどの症状も、頻繁に起こってきます。

加齢による物忘れと認知症の違いは、自覚があるかないかです。例えば、加齢によるものは夕食で何を食べたか忘れ、認知症は夕食を食べたこと自体を忘れてしま

認知症カフェ

認知症ご本人やその家族、専門職、地域の方がお茶を飲みながら自由に語り合える場所です。ぜひ、お気軽に参加ください。



■次回開催

日時：1月23日(日) 10時30分～11時30分
場所：観月台文化センター 多目的スペース

国見町認知症初期集中支援チーム

町では、認知症の症状が心配な方に早期に対応するため、専門職チームを公立藤田総合病院に設置しています。医師や看護師、作業療法士などで構成されたチームが自宅を訪問し、本人や家族に合わせた医療・介護サービスの利用に向けた支援を行います。

国見町認知症初期集中支援チーム（公立藤田総合病院内）
※平日9時～16時 ☎ 563-6763
国見町地域包括支援センター ☎ 585-2702

サポーターの証
オレンジリング

認知症サポーター養成講座

認知症の病状や行動を理解し、認知症の方やその家族を見守る「認知症サポーター」を養成しています。国見町の全サポーターは1,247人で、町職員のサポーターは80人です。（12月末現在）講師は無料で派遣しますので、希望する団体は福祉課長寿介護係まで問い合わせください。

福祉課長寿介護係 ☎ 585-2125



▲町職員を対象にした認知症サポーター養成講座

ます。体験の記憶そのものが抜け落ちてしまうのが認知症です。認知症の中には、硬膜下血腫や水頭症など手術をすれば治る認知症もあります。早期発見し、原因をまず明らかにすることが大切です。早期治療につながれば進行を遅らせることも可能です。

早期発見のポイント

初期段階では、覚えていられないと自分で気付きますが、進行するにつれ「忘れた」という意識がなくなります。身だしなみを気にしなくなった、1日中ぼーっとしているなど「いつもと様子が違う」と周囲の人が感じたら、すぐにかかりつけ医や地域包括支援センターなどへ相談してください。

認知症との関わり方

認知症の方はどんなに症状が進行しても「感情」は最後まで残ります。本人の自尊心を傷つけないように関わるのが大切です。

また、認知症の方が地域で暮らしていくためには、周囲の理解や見守りが重要です。特に何かをしなくても気に掛けることが支援に繋がる時もあります。特に一人暮らしの高齢者の方は、普段から近所つきあいを大切にし、お互いに気に掛け合える関係ができればよいでしょう。



▲認知症初期集中支援チームの会議の様子

認知症チェックポイント

※いくつか思い当たることがあれば相談を

- ついさっきのことを忘れる
- 置き忘れが増え、いつも探し物をしている
- 同じものばかり買ってしまふ
- 食事の準備に時間がかかるようになった
- おつりの計算に戸惑う
- 家電の操作が上手くできない
- 日課や趣味をしなくなる
- 意欲がなく、ぼんやりしていることが多い
- 曜日や日付が分からない
- 外出して道に迷ったりする
- 失敗を指摘すると必要以上に怒る

【参考】十束支明：認知症のすべて

専門医に聞く

認知症は早期発見と

周囲の見守りが必要

脳の病気であり、誰もがかかる可能性がある認知症。認知症とはどのような病気なのか、私たちができることとはあるのか、公立藤田総合病院副院長で認知症サポート医の佐藤昌宏先生にお話を伺いました。



認知症専門医の声
公立藤田総合病院
副院長
佐藤 昌宏 先生

認知症でもまだまだ輝ける

私は、国見町地域包括支援センターで認知症地域支援推進員として、認知症の方やご家族の相談・支援を行ったり、地域に出向いて認知症の啓蒙活動などを行っています。

活動をやる中で、「認知症になったら終わりだ」といったイメージが根強いと感じます。認知症になると家族だけで何とかしようとして社会から隔絶させがちです。認知症を発症したとしても、周囲の理解と支えがあれば諦めることがなくなり、新しいことを始めることもできると思います。本人やその家族がその人らしく、国見町で暮らしていくためにどう支えていくか、前向きに話し合える地域であってほしい。認知症になっても「安心感」を持てるような関りができるように、今後も推進員として活動を継続していきます。

認知症について心配なことがあれば、お気軽に地域包括支援センターへご相談ください。



認知症地域支援推進員の声
国見町地域包括支援センター
看護師
四家 歩さん

四家 歩さん